

令和4年度全国学力・学習状況調査 教科における学習内容の定着状況の概要（廿日市市版）

小学校国語

○正答率の状況（％）

| | R4 | R3 |
|--------|------|------|
| 廿日市市 | 70.0 | 70.0 |
| 広島県 | 67.0 | 66.0 |
| 全国（公立） | 65.6 | 64.7 |

正答率 60%以上の設問（上位2問）

- 【話し合いの様子の一部】における谷原さんの発言の理由として適切なものを選択する。
 <設問1 一> 88.0%
- 【話し合いの様子の一部】で、中村さんが前田さんに質問し、知りたかったことの説明として適切なものを選択する。
 <設問1 三> 87.2%

正答率 60%未満の設問（下位2問）

- 【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く。
 <設問3 二> 45.2%
- 「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、でどのように話すかを書く。
 <設問1 四> 53.0%

広島県との差が大きかった設問（下位2問）

- 【山村さんの文章】のB<input type="checkbox"/>に入る内容として適切なものを選択する。
 <設問2 三> ー2.7ポイント（廿日市市 58.2%、広島県 60.9%）
- 【文章2】のの部分、どのようなことに気を付けて書いたのか、適切なものを選択する。
 <設問3 一> ー2.1ポイント（廿日市市 61.2%、広島県 63.3%）

正答率の状況から見取った課題

<全体的な傾向> 【評価の観点】思考・判断・表現 【問題形式】記述式に課題がある。

- ①文章全体の構成や展開、表現の効果に着目して、文章を整えたり文章のよさを書いてまとめたりすることに課題がある。
- ②条件に合わせて自分の考えを書くことに課題がある。

説明力、表現力を育成するために

1 丁寧に読む 書いてある内容を正しく読み取る

〈何が書かれているか〉
何が話題になっているか、
筆者が伝えたいことは何か など

〈どのように書かれているか〉
語句や表現、構成の工夫などに着目

〈なぜそのように書かれているのか〉
題名や文章中の表現に込められた意味は何か、事例の並べ方の意味は何か など

例えば…第1学年下 国語「いろいろなふね」43ページ～

- ①このお話には、ふねはいくつ出てきますか。⇒文章の具体的な内容をとらえる
- ②どこからどこまでが「客船」のお話でしょうか。(以下、フェリーボート、漁船、消防艇についても確認) ⇒意味段落のまとまりをとらえる、各段落の書きぶりをとらえる
- ③一番すごいと思うふねはどれですか。
⇒「自分の一番」を選ぶために文章を細かく読んで理由を考える

文章の書き方を捉える力を育成



2 しっかり考えて書く 条件に照らして文章の内容や構成、書き方を工夫して書く

誰に向けて書くか、何のために書くか 何を書くか、どのような構成で書くか

書き方をどう工夫するか、どこをどう推敲するか など

例えば…構成メモをつくる

- ①テーマに関する情報収集 ②情報の分類・整理 ③文章の構成
- 付箋やタブレットを使って伝えたいことを書き出す、選択する、並び替える…など

R3の指導の工夫ポイント
等も参照してください

3 きちんと見直す 構成メモをもとに条件に照らしながら、内容を入れ替えたり、表現を直したりする

この文章で目的に合っているか 相手に伝わる書き方になっているか など

例えば…互いの文章を読み合い、具体的に感想や意見を伝え合う活動



〇〇さんは、推敲のときにことわざを最初の段落に書き加えていましたね。どうしてそうしようと思いましたか。

書き手が工夫したところを自ら伝えられるように、教師が尋ねる



自分がかんばろうと決意したきっかけをくれた言葉だったので、文章のはじめに書き加えました。

書き手に思いを表出させたり、工夫やよさに気付かせたりする



ことわざの「最初の〇〇」を文章全体を通して繰り返し使っているのので、小池さんの「今年、いろいろなことにあきらめずに挑戦したい」という思いが伝わったよ。

経験の取り上げ方や言葉の選び方、書き方の工夫を認め合い、自分の表現に生かす

令和4年度全国学力・学習状況調査 教科における学習内容の定着状況の概要（廿日市市版）

小学校算数

○正答率の状況（％）

| | R4 | R3 |
|--------|------|------|
| 廿日市市 | 65.0 | 73.0 |
| 広島県 | 64.0 | 70.0 |
| 全国（公立） | 63.2 | 70.2 |

正答率 60%以上の設問（上位2問）

- 1050×4を計算する。
＜設問 1（1）＞ 93.0%
- 長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く。
＜設問 4（2）＞ 86.5%

正答率 60%未満の設問（下位2問）

- 果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ。
＜設問 2（3）＞ 20.4%
- 85×21の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ。
＜設問 1（4）＞ 32.5%

広島県との差が大きかった設問（下位2問）

- 果汁が25%含まれている飲み物の量を基にしたときの、果汁の量の割合を分数で表す。
＜設問 2（1）＞ -2.5ポイント（廿日市市 68.5%、広島県 71.0%）
- 1年生と6年生が希望する遊びの割合を調べるためのグラフを選び、そのグラフから割合が一番大きい遊びを選ぶ。
＜設問 3（3）＞ -0.1ポイント（廿日市市 66.6%、広島県 66.7%）

正答率の状況から見取った課題

＜全体的な傾向＞【領域】C変化と関係 【評価の観点】思考・判断・表現 【問題形式】選択式に課題がある。

- ①数量の関係に着目し、基準量、比較量、割合の関係や、伴って変わる二つの数量の関係について考察することに課題がある。 【C変化と関係】
- ②日常生活の事象について、目的に応じて、必要なデータを収集し、観点を決めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目して考察することに課題がある。 【Dデータの活用】

○ 日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解させる。

日常の具体的な場面に対応させるとは？

<設問2(3)>の場合 りんごの果汁が20%ふくまれている飲み物。

20% (割合) は、何を表しているか？ → りんごの果汁(味)の濃さ【子どもに分かる言葉で】
 「20%より50%のジュースの方が、りんごの味が濃い。10%だと薄くなる。それならば、お店で見かける果汁100%のジュースは、りんごの味そのもの！」という具合に、具体的な場面を通して理解させる。

このような理解をしていけば・・・

500mLの飲み物を2人で等しく分けると、1人分は250mLになる。
 このとき、飲み物に含まれる果汁の割合は1/2? 2倍? 変わらない?

果汁20% (割合) ⇒ りんごの味の濃さ



2つに分けたら、味は変わる？

「味は、変わらない。(濃さは変わらない。)」



「味が変わらないということは、割合は変わらない。」



問題場面の具体的なイメージをもたせる工夫を取り入れませんか！

第5学年「割合」P178 **3**

定員が50人のバスがあります。
 いま、バスには42人の乗客がいます。
 乗客の数は、定員の何%にあたりますか。

当然わかっていると決めつけずに・・・

- ・定員は、どういう意味だろう？
- ・乗客は、どういう意味だろう？

語句の理解

定員＝乗り物に乗ることができる最大の人数。

「どんなにたくさん乗っても、50人までなんだね。」

乗客＝乗り物に乗っている人。

「最大50人乗れるバスに42人乗っているんだね。」「けっこうたくさん乗ってるね。」

見積もりにもつながる

第5学年「割合」P179 **5**

あきらさんの学校のしき地は8000㎡で、しき地全体の60%が運動場です。
 運動場の面積は何㎡ですか。

単なる計算で終わらせないために・・・

- ・8000㎡って、そもそもどれくらいの広さ？
- ・60%って、どれくらいの広さ？

<イメージをもたせる「やり取り」>

「うちの学校のしき地は、15000㎡だよ。あきらさんの学校は、広い？せまい？」

補足情報

「60%ってことは、半分(50%)より広い？せまい？」

見積もり

日常の具体的な場面に関わりながら、問題解決をしなければ、学んだことを実際の生活の中で活用することはできません。ぜひ、具体的なイメージがもてるような指導を！→ICTの効果的な活用を！（低学年段階では、具体物を使った操作活動等の方が効果的な場合もある）

令和4年度全国学力・学習状況調査 教科における学習内容の定着状況の概要（廿日市市版）

小学校理科

○正答率の状況（％）

| | R4 | R3 |
|--------|------|----|
| 廿日市市 | 67.0 | — |
| 広島県 | 66.0 | — |
| 全国（公立） | 63.3 | — |

正答率 60%以上の設問（上位2問）

- 見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものであるかを選ぶ。
 <設問 1（1）> 95.8%
- 冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ。
 <設問 4（1）> 85.6%

正答率 60%未満の設問（下位2問）

- 光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ。
 <設問 3（1）> 28.7%
- 問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く。
 <設問 3（4）> 40.9%

広島県との差が大きかった設問（下位2問）

- 昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ。
 <設問 1（3）> -2.5ポイント（廿日市市 73.1%、広島県 75.6%）
- 水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見だし、問題に対するまとめを選ぶ。
 <設問 2（3）> -2.0ポイント（廿日市市 61.3%、広島県 63.3%）

正答率の状況から見取った課題

<全体的な傾向> 【領域】「エネルギー」を柱とする領域 【評価の観点】知識・技能
 【問題形式】記述式に課題がある。

- ① 昆虫の体のつくりの理解に課題がある。 【B生命・地球】
- ② 自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことに課題がある。 【A物質・エネルギー】

① 昆虫の体のつくりに着目し、複数の種類の昆虫の体のつくりを比較しながら調べる。

→ 差異点や共通点を基に、共通した特徴である成虫の頭、胸、腹といった部分に着目して、調べたことを他者に正確に説明する。

大きさや形、動きはそれぞれちがうけど、チョウのように頭、胸、腹に分かれているのかな。

(単元の展開例) 第3学年「こん虫を調べよう」

問題：こん虫の体のつくりはどのようになっているのだろうか。

- ・ トンボやバッタ、テントウムシなど様々な昆虫を採集し、体のつくりを調べるとともに、タブレットで撮影し記録する。
- ・ 様々な昆虫の体のつくりについて、共通点や差異点を見だし話し合う。
- ・ 調べたり話し合ったりしたことから、どのようなことが言えるのかをまとめる。
- ・ 記録した画像を提示しながら、昆虫の体のつくりの共通点について説明する。
- ・ ダングムシやクモは昆虫と言えるか、理由を付けて説明する。



② 自他の考えを比較することで、自分の考えを見直し、多面的に考えるといった考え方を働かせる。

→ 実験の結果を基に、自分の考えをより科学的なものに変容させようとする。

(学習展開の例) 第5学年「物のとけ方」

問題：水の温度を上げると、食塩やミョウバンの溶ける量は増えるのだろうか。

- ・ 変える条件と変えない条件に着目し、実験方法について考え決定する。
- ・ 実験結果を予想し、理由を付けてタブレットに入力する。
それぞれが入力したものは、電子黒板に表示する。
- ・ 実験を行い、結果を表やグラフに整理する。
- ・ あらためて問題とみんなの予想を確認・比較し、実験結果から言えることを自分の言葉でまとめる。

温かい紅茶に砂糖を入れるとよく溶けるから、どちらも増えるんじゃないかな。



図3 思考力、判断力、表現力等及び学びに向かう力、人間性等に関する学習指導要領の主な記載

| 校種 | 領域・能力 | 学年 | エネルギー | 粒子 | 生命 | 地球 |
|-----|--------------|------|---|----|----|----|
| 小学校 | 思考力、判断力、表現力等 | 第3学年 | 《比較しながら調べる活動を通して》 自然の事象・現象について追究する中で、差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現すること。 | | | |
| | | 第4学年 | 《前提付けて調べる活動を通して》 自然の事象・現象について追究する中で、学習の内容や生活経験を基に、類似のある予想や仮説を立案し、表現すること。 | | | |
| | | 第5学年 | 《条件を制御しながら調べる活動を通して》 自然の事象・現象について追究する中で、予想や仮説を基に、解決の方法を立案し、表現すること。 | | | |
| | | 第6学年 | 《多面的に調べる活動を通して》 自然の事象・現象について追究する中で、より多面的な考えをつくりだし、表現すること。 | | | |
| | 学びに向かう力、人間性等 | | 主体的に問題解決しようとする態度を養う。 | | | |
| | | | 生物を愛護する(生命を尊重する)態度を養う。 | | | |

※ 各学年で育成を目指す思考力、判断力、表現力等については、該当学年において育成することを前提とするが、異なるものを示したものであり、他の学年で掲げている力の育成についても十分に配慮すること。

「思考力・判断力・表現力等」については、各学年で主に育成を目指す問題解決の力が具体的に示されています。

令和4年度全国学力・学習状況調査 教科における学習内容の定着状況の概要（廿日市市版）

中学校国語

○正答率の状況（％）

| | R4 | R3 |
|--------|------|------|
| 廿日市市 | 71.0 | 64.0 |
| 広島県 | 69.0 | 65.0 |
| 全国（公立） | 69.0 | 64.6 |

正答率 60%以上の設問（上位2問）

- 最初に書いた文字の漢字のバランスについて説明したものとして適切なものを選択する。
＜設問 4 二＞ 89.5%
- 「途方に暮れた」の意味として適切なものを選択する。
＜設問 3 二＞ 84.7%

正答率 60%未満の設問（下位2問）

- 行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する。
＜設問 4 一＞ 35.8%
- 農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える。
＜設問 2 三＞ 48.2%

広島県との差が大きかった設問（下位3問）

- 行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する。
＜設問 4 一＞ -4.8ポイント（廿日市市35.8%、広島県40.6%）
- 文脈に即して、漢字を書く。（のぞく）
＜設問 2 二 ①＞ -1.3ポイント（廿日市市79.8%、広島県81.1%）
- 最初に書いた文字の漢字のバランスについて説明したものとして適切なものを選択する。
＜設問 4 二＞ -0.9ポイント（廿日市市89.5%、広島県90.4%）

正答率の状況から見取った課題

＜全体的な傾向＞…【評価の観点】知識・技能に課題
【問題形式】記述式に課題

- ①行書の書き方については理解できているが、「点画の連続」「点画の省略」「筆順の変化」など、それぞれがどのような書き方なのかを具体的に捉えるような行書の特徴を理解できていない。
- ②根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことができていない。特に、引用の際には引用箇所をかぎかっこでくることが理解できていない。

① 具体化して説明したり対話したりすることで、知識を理解させる。

第2学年「新しい書写」(東京書籍)52ページ～「1 行書の書き方を学ぼう」
「点画の省略」「筆順の変化」について、書く動きと「省略」や「変化」の仕方について、
理解させながら書かせる。

D マークがついているページは書き方動画をタブレット端末で視聴することができます。生徒一人一人が、いつでも、何度でも視聴できるように活用しましょう。



練習の時間に各自が書き上げた作品を使って、行書の特徴が表れているところをペアで説明し合う活動を取り入れるなど、身に付けた知識について、理解が深まる学習にしましょう。



② 引用する際のルールを理解させ、正しく引用させる。



令和3年度に引き続いて、課題となっています。考えの根拠となる情報は抜き出せていますが、「」が抜けてしまう傾向があります。中学校1年生の時にしっかりおさえましょう。

第1学年「国語1」(光村図書)60ページ「情報社会を生きる」
【目的に合った情報を集め、活用させる】学習活動で、引用の方法を理解させる。

「・・・」と書かれていて、私は〇〇〇と感じました。

引用部分

自分の考え

- 自分の書いた文章のどの部分が「引用部分」で、どの部分が「自分の考え」となっているのか、理解させることが大切。

【授業展開例】

- ・インターネット等から記事を選択する。
- ・記事に対するレポートを書く活動を設定する。
- ・書き終えたレポートをペアやグループで相互評価させる。
- ・自分のレポートを推敲させる。



- 相互評価の視点を、文章を書く前に提示する。

③ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えるなど、自分の考えが伝わる文章を工夫させる。

第2学年「国語2」(光村図書)196ページ「走れメロス」
小説を読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動を通して、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈する力をつける。

【授業展開例】

- ① 場面に即して、人物像を読み取る。
- ② 読み深めたことなどを参考に、作品の魅力について、自分の考えをまとめる。
- ③ グループで交流する。



- 魅力をまとめる観点を提示する。
「人物像」「場面の展開」「描写」など、観点を先に設定しておく。
「描写」など、本文を抜き出すとき引用の仕方が正しいかも評価する。

令和4年度全国学力・学習状況調査 教科における学習内容の定着状況の概要

中学校数学

○正答率の状況(%)

| | R4 | R3 |
|--------|------|------|
| 廿日市市 | 53.0 | 54.0 |
| 広島県 | 50.0 | 57.0 |
| 全国(公立) | 51.4 | 57.2 |

正答率60%以上の設問(上位2問)

- 容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ。
 <設問 5> 83.5%
- 証明で用いられている三角形の合同条件を書く。
 <設問 9(1)> 74.7%

正答率60%未満の設問(下位2問)

- $\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が 30° になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成する。
 <設問 9(2)> 9.5%
- 変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ。
 <設問 4> 34.8%

広島県との差が大きかった設問(下位3問)

- 同じ偶数の和である $2n+2n=4n$ について、 n が9のときどのような計算を表しているかを書く。
 <設問 6(1)> -2.8ポイント (廿日市市 69.0%、広島県 71.8%)
- $\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が 30° になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成する。
 <設問 9(2)> -1.3ポイント (廿日市市 9.5%、広島県 10.8%)
- コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び、選んだ理由を説明する。
 <設問 7(1)> -0.9ポイント (廿日市市 47.4%、広島県 48.3%)

正答率の状況から見える課題

<全体的な傾向> 【学習指導要領の領域】全ての領域において、県平均を上回っているが、
 図形領域に課題があり、唯一全国平均を下回った。
 【評価の観点】思考・判断・表現に課題 【問題形式】記述式に課題

- 図形の性質を考察する場面において、筋道を立てて考えること、事象に即して解釈したことを数学的に表現すること、事柄が成り立つ理由を数学的に説明することに課題がある。【B 図形】

- **図形を動かす**など、条件の一部を変えることにより、問題を発展的に考えさせたり、統合的に捉えさせたりする！



子ども主体で、ICT（電子黒板、Chrombook）を効果的に活用しよう！

学習者用デジタル教科書や学校図書館のQRコード教材「学図プラス」、数学アプリ等を用いて、図形の変化の様子を動的に観察させ、**図形相互の関係や、図形が動いたときに変化するもの、変化しないものなどを把握させる数学的活動**を設定しよう！

※令和4年度「学びの保障・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業」に係り、一部の中学校においては、学習者用デジタル教科書も利用可能。

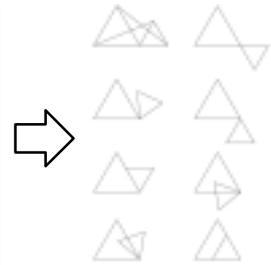
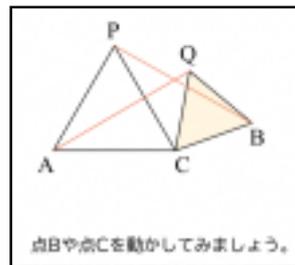
第2学年 5章「三角形・四角形」教科書P.175、176

教科書P.154において、「線分AB上に点Cをとり、AC、BCをそれぞれ1辺とする正三角形ACP、CBQをつくると、AQ=PBである。」ことを証明した後に、

数学的活動①

△CBQを点Cを回転の中心として回転移動したとき、AQ=PBが成り立つかどうかを調べる。

→「学図プラス」を用いて点を動かし、**2つの正三角形の位置関係に着目することで、証明の際に注目する三角形や合同条件に必要な等しい辺及び角を把握するための数学的な見方が働く！**



数学的活動②

①で調べた8つの場合について、班で分担し、AQ=PBが成り立つことを証明する。

→**発表し合う場を設定し、P.154の証明と比べて、どの部分が変わったのか考察することで、数学的な考え方が働き、数学的に表現することにつながる！**

R4全国学力・学習状況調査 <設問 9(2)>に係る学習指導に置き換えてみると、

数学的活動①

- ・長方形ABCDの辺の長さを変え、長方形の大きさや形を変えた図形を観察し、成り立つと予想される事柄を見いだす。
- ・長方形ABCDを平行四辺形やひし形、台形などの他の四角形に変えても、長方形ABCDのときと同じ結論が得られるかどうかについて考察する。

数学的活動②

- ・長方形の証明を見て、変わる場所や変わらない場所について発表し合う。
- ・長方形の証明を参考に、どんな四角形においてもEB=BFが成り立つのか、証明する。

しっかりとした教材研究、よい授業作りとは極めてシンプル！授業改善の本質は、、、
 ★ 指導者が「これおもしろいな。どうなるかな。ちょっとやってみよう。わくわくするな。」
 と思える授業（教材・課題）を追究する！
 ★ 子どもの思考の流れや反応、つまづきを徹底的に予想する！

令和4年度全国学力・学習状況調査 教科における学習内容の定着状況の概要（廿日市市版）

中学校理科

○正答率の状況（％）

| | R4 | R3 |
|--------|------|----|
| 廿日市市 | 50.0 | — |
| 広島県 | 49.0 | — |
| 全国（公立） | 49.3 | — |

正答率 60%以上の設問（上位2問）

- タッチパネルの反応に水が関係しているかを調べるために、変える条件と変えない条件を適切に設定した実験操作の組合せを選択する。
 <設問 1（2）> 80.5%
- 分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す。
 <設問 3（1）> 78.9%

正答率 60%未満の設問（下位2問）

- おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する。
 <設問 5（1）> 14.0%
- 水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとを指摘する。
 <設問 3（3）> 25.8%

広島県との差が大きかった設問（下位3問）

- 液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する。
 <設問 7（1）> -1.8 ポイント（廿日市市 31.8%、広島県 33.6%）
- 観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を空気の柱の長さで説明する際、適切な長さの変化を選択する。
 <設問 2（1）> -1.6 ポイント（廿日市市 51.2%、広島県 52.8%）
- 東西方向と南北方向の地層の断面である露頭のスケッチから、地層が傾いている向きを選択する。
 <設問 6（3）> -1.2 ポイント（廿日市市 33.1%、広島県 34.3%）

正答率の状況から見取った課題

<全体的な傾向>…探求の過程における検討や改善を問う設問について、他者の考えの妥当性を検討したり、実験の計画が適切か検討して改善したりすることに課題がある。

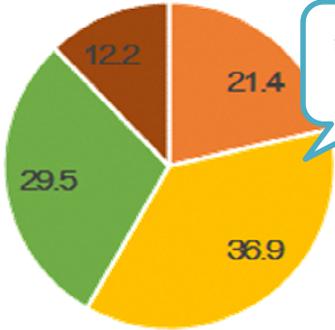
- ① 第1分野（物質やエネルギーに関する事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する）に課題がある。
- ② 学習した仕組みを身近な現象に結び付けることに課題がある。
 【第1分野 （1）身近な物理現象 （2）身の回りの物質 （3）電流とその利用】

課題に対する手立て・学習指導の工夫・授業改善のポイント等

学習した仕組みを身近な現象に結び付けることに課題→生徒質問紙調査の結果をみると・・・

理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

理科の学習内容は、日常生活に関連が深いものが多いにも関わらず、生徒質問紙の回答においても、国語や数学に比べ必要感が低い！



肯定的回答
58.3%

- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

学習したことを身近な事物や現象に結びつけて考えさせる必要がある

学習したことを確かめたり、振り返ったりする場面で、身近な場面と結びつけた問題で考えさせる。

タブレットを活用して生徒一人一人が繰り返し思考できるようにする。

生徒同士で交流させ、考えを整理したり、深めたりできるようにする。



○ICTを活用し、学習した仕組みを身近な現象に結び付けるための工夫

第1学年 単元3 身のまわりの現象 第3章「力の世界」教科書P180、181



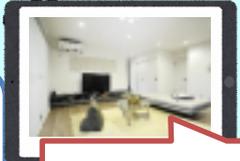
力を表すには、

- ・物体に力を加えている点（作用点）は、線の「始点」を表す。
- ・力の向きは、線の「矢印」で表す。
- ・力の大きさは、線の「長さ」で表す。



では、こんな場面では、どんなところに力がはたらいていますか。また、その力を表すことができますか。

何も動いていないから力がはたらいていないところはないよ。



タブレットに日常的な場面の画像を表示し、力の大きさを書き込ませる。

単元の導入場面などで、学習内容に関わりのある話題を取りあげ、自分ごととしてとらえさせる。

日頃から、新聞やニュースから理科に関わりのあるものを見つけておく。

生徒に単元の本質に迫る問いや、投げかけをし、生徒自身に課題意識をもたせる。

○ニュースや新聞を活用し、学習内容を身近な現象に結び付けるための工夫

第1学年 単元2 身のまわりの物質 第4章「物質の姿と状態変化」教科書P118、119

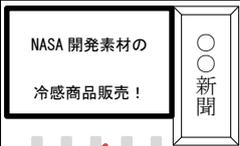


最近、米航空宇宙局（NASA）が開発した冷感素材が話題になっていますが、皆さん知っていますか。



この新素材は、「マジックアイス28」といって、28度で液体から固体に変化する素材だそうです。水や他の物質とはどこが違うのかな。

28度で凍るということかな。水が凍るのは、0度だから、液体から固体になるときの温度が違うということ？



学習内容に関わりのある新聞記事や、ニュースを取り扱う。

日々の授業の中で日常生活と結びつける工夫を意識していきましょう！

令和4年度全国学力・学習状況調査 質問紙における児童の学習状況の概要

小学校児童質問紙

○ 肯定的回答（1当てはまる、2どちらかといえば、当てはまる）の割合（％）

| | R 4 | 県平均 | R 3比増減 |
|--|------|------|--------|
| 自分には、よいところがあると思いますか | 83.1 | 79.9 | -1.6 |
| 先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか | 88.5 | 87.2 | - |
| 将来の夢や目標を持っていますか | 81.8 | 80.8 | +1.2 |
| 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか | 89.0 | 88.0 | +1.3 |
| 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか | 76.8 | 74.1 | +2.5 |
| 人が困っているときは、進んで助けていますか | 86.3 | 89.1 | +0.3 |
| いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか | 96.1 | 97.1 | -1.8 |
| 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか | 68.2 | 70.5 | -2.3 |
| | 廿日市 | 県平均 | 全国平均 |
| 5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。（週3日以上）の割合 | 55.1 | 54.2 | 56.9 |
| 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。 | 95.9 | 95.2 | 94.4 |

○ 家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていましたか（複数選択）（％）

| | 1. 先生に聞く | 2. 友達に聞く | 3. 家族に聞く | 4. 上記1、2、3以外のの人に聞く | 5. 自分で調べる | 6. 分からないことはそのままにしている | 7. 分からないことはない |
|-----|----------|----------|----------|--------------------|-----------|----------------------|---------------|
| 廿日市 | 30.4 | 62.0 | 79.7 | 5.6 | 69.9 | 14.1 | 6.2 |
| 県平均 | 36.3 | 63.4 | 80.9 | 6.4 | 68.7 | 11.9 | 4.8 |

回答の状況から見える課題

- ① 「先生に良いところを認めてもらえている」項目の肯定的回答の割合が高く、そのため自己肯定感についても県平均と比較しても高い。その反面、「人が困っているときは、進んで助ける」、「困りごとや不安があるときに先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」。「課題で分からないことがあったとき、先生に聞く」の項目は県平均と比べ低い状況にある。
- ② 「いじめはどんな理由があっても許されない」の項目が県平均そして前年度との比較で低い状況にある。また、否定的回答のなかでも「あてはまらない」と回答した児童が1.5%いる。（県：0.8%、全国0.9%）
- ③ ICT機器の役立ち感が高く、効果的に使用できている実態が窺えるが、使用頻度については全国平均よりも低い状況にある。

課題①に対して

※自己肯定感といじめを許さない意識が前年度と比較して低下していることについて、
関連性に着目する等**自校の分析を!**

○ 学習指導と生徒指導の一体化の推進

授業のなかに、知識や思考力等を育て学力を高めるだけでなく、児童が個性を伸ばし社会性を身につけるよう働きかける「生徒指導の実践上の視点」を意識して組み込んでいく。

・教室での「教科の学び」



生徒指導の実践上の視点を意識する
自己存在感の感受
共感的人間関係の育成
自己決定の場の提供（自ら考え、判断・表現する）
規範意識の醸成（生徒が納得し、自らルールを守る）

一人ひとりが尊重される
間違いが大切にされる
わからないことが恥ずかしくない
→ 居場所、絆づくりが推進される



・「個性の伸長・社会性の獲得」につなげる

○ 「助けて」、「教えて」が言える生徒に！（ソーシャルスキルとしての援助希求能力の育成）

SSTの一般的な進め方

- ①教示：そのスキルの必要性の説明、動機づけ
- ②モデリング：望ましい行動を見せる
- ③リハーサル：実際に試してみる
- ④強化：リハーサルによる成功体験を与える
- ⑤般化：場面や状況が変わってもその行動ができる

望ましい行動を
肯定的に評価



課題②に対して

○ いじめの組織的、積極的な認知の推進

- ・ 教師の支持的・支援的なスタンスを下地にして、児童が安心・安全を感じられるように、一見些細に見えるようなことでも、しっかりと注意・指導していくことが、教師への信頼につながり、様々な教育活動に肯定的な影響を与える可能性がある。その結果児童が「**学校とのつながり**」を強めていくことができる。「学校とのつながり」はいじめの加害の抑止になり得る。
- ・ 生徒指導の取組を改善させるためには、**教職員が学び合う職場環境**を形成していくことが大切。それを基軸に教職員の意欲、生徒の情報共有、ビジョンの共有につなげ、生徒指導実践の質の改善を目指す。

（『生徒指導情の諸課題に対する実効的な学校の指導体制の構築に関する総合的調査研究（令和元年度調査）』中間報告書考察より引用）



廿日市で発生した自死の事案の教訓を活かす！いじめはどんな理由があっても許されない！

課題③に対して

○ ICT機器がいつでも使える環境整備と、児童主体の情報モラル向上

- ・ 「**文房具のように**」使用できる環境を生徒の実態と状況に応じて推進する。
- ・ 専門家（行政書士等）による情報モラル出前授業を小学校4年生に実施予定（次年度から）



日常的な指導の継続につなげる。

令和4年度全国学力・学習状況調査 質問紙における生徒の学習状況の概要

中学校生徒質問紙

○ 肯定的回答（1当てはまる、2どちらかといえば、当てはまる）の割合（％）

| | R 4 | 県平均 | R 3比増減 |
|--|------|------|--------|
| 自分には、よいところがあると思いますか | 81.6 | 82.8 | +0.4 |
| 先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか | 89.0 | 87.7 | － |
| 将来の夢や目標を持っていますか | 71.2 | 71.8 | +1.5 |
| 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。 | 71.1 | 72.7 | － |
| 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか | 67.2 | 71.4 | -1.2 |
| 人が困っているときは、進んで助けていますか | 84.2 | 88.9 | +0.1 |
| いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか | 96.0 | 96.7 | +0.9 |
| 学校に行くのは楽しいと思いますか | 80.5 | 83.0 | +2.0 |
| | 廿日市 | 県平均 | 全国平均 |
| 2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。(週3日以上)の割合) | 41.0 | 46.8 | 50.9 |
| 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。 | 93.6 | 94.0 | 92.6 |

○ 家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていましたか（複数選択）（％）

| | 1. 先生に聞く | 2. 友達に聞く | 3. 家族に聞く | 4. 上記1、2、3以外の人に聞く | 5. 自分で調べる | 6. 分からないことはそのままにしている | 7. 分からないことはない |
|-----|----------|----------|----------|-------------------|-----------|----------------------|---------------|
| 廿日市 | 26.3 | 66.2 | 41.8 | 9.6 | 76.3 | 10.1 | 1.3 |
| 県平均 | 31.1 | 68.9 | 45.4 | 12.7 | 71.7 | 11.7 | 1.4 |

回答の状況から見える課題

- ① 「先生に良いところを認めてもらえている」の項目は肯定的回答の割合が高いが、自己肯定感については県平均と比較しても低い。また、「人が困っているときは、進んで助ける」、「困りごとや不安があるときに先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」、「課題で分からないことがあったとき、先生に聞く」の項目は県平均と比べ低い状況にある。
- ② 「いじめはどんな理由があっても許されない」の項目については前年度からは増加したが、県平均との比較で低い状況にある。また、否定的回答の割合が4.1%である。(県：3.2%、全国3.6%)
- ③ ICT機器の役立ち感が高く、効果的に使用できている実態が窺えるが、使用頻度については全国平均よりも低い状況にある。

課題①に対して

○ 学習指導と生徒指導の一体化の推進

授業のなかに、知識や思考力等を育て学力を高めるだけではなく、生徒が個性を伸ばし社会性を身につけるよう働きかける「生徒指導の実践上の視点」を意識して組み込んでいく。

・ 教室での「教科の学び」



生徒指導の実践上の視点を意識する
自己存在感の感受
共感的人間関係の育成
自己決定の場の提供（自ら考え、判断・表現する）
規範意識の醸成（生徒が納得し、自らルールを守る）

一人ひとりが尊重される
間違いが大切にされる
わからないことが恥ずかしくない
→ 居場所、絆づくりが推進される



・ 「個性の伸長・社会性の獲得」につなげる

○ 「助けて」、「教えて」が言える生徒に！（ソーシャルスキルとしての援助希求能力の育成）

SSTの一般的な進め方

- ① 教示：そのスキルの必要性の説明、動機づけ
- ② モデリング：望ましい行動を見せる
- ③ リハーサル：実際に試してみる
- ④ 強化：リハーサルによる成功体験を与える
- ⑤ 般化：場面や状況が変わってもその行動ができる



望ましい行動を
肯定的に評価



課題②に対して

○ いじめの組織的、積極的な認知の推進

- ・ 教師の支持的・支援的なスタンスを下地にして、児童生徒が安心・安全を感じられるように、一見些細に見えるようなことでも、しっかりと注意・指導していくことが、教師への信頼につながり、様々な教育活動に肯定的な影響を与える可能性がある。その結果生徒が「**学校とのつながり**」を強めていくことができる。「学校とのつながり」はいじめの加害の抑止になり得る。
- ・ 生徒指導の取組を改善させるためには、**教職員が学び合う職場環境**を形成していくことが大切。それを基軸に教職員の意欲、生徒の情報共有、ビジョンの共有につなげ、生徒指導実践の質の改善を目指す。

（『生徒指導情の諸課題に対する実効的な学校の指導体制の構築に関する総合的調査研究（令和元年度調査）』中間報告書考察より引用）



廿日市で発生した自死の事案の教訓を活かす！いじめはどんな理由があっても許されない！

課題③に対して

○ ICT機器がいつでも使える環境整備と、生徒主体の情報モラル向上

- ・ 「**文房具のように**」使用できる環境を生徒の実態と状況に応じて推進する。
- ・ 専門家（行政書士等）による情報モラル出前授業を中学1年生に継続的に実施予定



日常的な指導の継続につなげる。